

## 文化観光の現状と課題に関する研究会 議事録

文責：迫田さやか

研究会名：文化観光の現状と課題に関する研究会

日時：6月2日 13時30分～15時 Zoom オンライン形式開催

スピーカー：(株)浅田屋 社長 浅田久太様

参加者：河島伸子先生（同志社大学経済学部教授）

八木匡先生（同志社大学経済学部教授）

太下義之先生（同志社大学経済学部教授）

土屋正臣先生（城西大学現代政策学部准教授）

李知映先生（芸術文化観光専門職大学）

迫田さやか先生（京都大学文学研究科日本学術振興会特別研究員）

議事録内容：①朝田様ご講演内容

②参加者との議論

### ご講演内容

#### 金沢について…

石川県は世帯所得1位、消費支出も高い。

#### 金沢の長所と課題…

外国人旅行者：

日本に海外から観光に来る主たる理由は日本食。

参照：観光庁が発表している「訪日外国人の消費動向 平成28年10-12月期報告書」によると、訪日外国人観光客が日本を訪れる前に最も期待していることは、「日本食を食べること 69.9%」

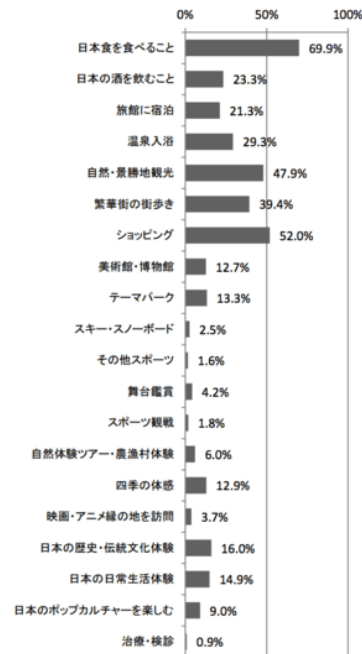


図 1：訪日前に期待していたこと（全国籍・地域、複数回答）  
 出所：「訪日外国人の消費動向 平成 28 年 10-12 月期報告書」

日本人旅行者（も含めて）：

旅行者は「旅行者のためのレストラン・食事場所」というところに行きたいわけではない。地元民が好んでいる場所を行きたがる一方で、地元民の日常生活が阻害される「観光公害」という問題が起きてくる。

### 日本文化について…

日本食は世界でブームが起きているが、活用しているのは日本人以外が主となっている。昆布・のり・わさびなど日本語がそのまま英語になっている。

例：NY のフレンチと金沢のフレンチから見る食事のボーダーレスについてご紹介いただいた。

### 文化交流について…

経産省から派遣されてきた公務員との共同プロジェクトなどがあった。

外務省の交換プログラムは実現しなかったが、日本食文化フェスタにおいて形成した人間関係をどのように継続するかが現在の課題

：ただし、浅田様は、

- ①Facebook などの SNS を利用されてネットワークの維持をされている。
- ②名刺の裏にその人の特徴を書いて、覚えておくようにしておくなどの工夫をされていお

る。

## 議論

①Goto トラベルクーポンによってどのような事態が生じたか

Goto トラベル開始前に来客していた客層との違いがあらわになった。

②富裕層向けサービスをどのように行うか

ホテルの中に貴賓室を建築するなど、結局、ホテルの中で富裕層と一般層が一緒の空間を共有するので意味がない。ホテル全体でのブランディングが必要となる。

③金沢の文化的な特徴について

京都とかぶらないように、という意識があり、金沢の人々の間には、「城・温泉・雪・工芸」というキーワードがある。

④経産省から派遣されてきた公務員との交流はどうだったか

「アイデアとお金」：外部の風が入って物事が動く可能性がある

⑤ブランディングについて

浅田屋さんに来られるきっかけは口コミがほとんどとのこと。また、富裕層については、ガイドブックに掲載されていて、一般観光客が行けるところには行ったとしても満足度が低いので工夫が必要となってくる。

これまでの経験で「特別感を味わいたい。地元の人が行く場所でも特別なところに行きたい。」ということや、「プライベートXX」を好むということを知った。

例：お出しした食器（焼き物）が素敵なので、見学のご紹介をしたところ、相当な額の購入をされて帰られた。